

シンポジウム | 特別講演

多職種連携シンポジウム

地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 ～成功と失敗に学ぶ多職種連携～

座長:高野 直久(日本歯科医師会 常務理事)、渡部 芳彦(東北福祉大学総合マネジメント学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:50 AM - 12:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【高野 直久先生略歴】

1982年 東京歯科大学卒業
1986年 東京歯科大学大学院修了(歯学博士)
1986年 東京歯科大学口腔外科学第2講座助手
1992年 高野歯科医院院長
1992年 東京歯科大学口腔外科学第2講座非常勤講師(現在:顎顔面口腔外科学講座)
2005年 (社)東京都歯科医師会理事, (社)東京都学校歯科医会理事
2016年 社会歯科学会理事, 日本顎関節学会監事
2016年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団常務理事
2017年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団専務理事
日本口腔外科学会専門医, 日本顎関節学会指導医・専門医, 日本口腔顔面痛学会指導医, 日本公衆衛生学会専門
家, 労働衛生コンサルタント, 介護支援専門員

【渡部 芳彦先生略歴】

1996年 東北大学歯学部卒業
2000年 東北大学大学院歯学研究科修了(高齢者歯科学)
2000年 東北福祉大学感性福祉研究所PD研究員
2002年 東北福祉大学嘱託助手
2004年 東北福祉大学講師
2004～2005年 トゥルク大学歯学部(フィンランド)客員研究員
2009年 東北福祉大学准教授
2018年 東北福祉大学教授
日本老年歯科医学会 認定医・専門医・指導医
日本老年歯科医学会 多職種連携委員・在宅歯科診療等検討委員・代議員

【抄録】

これからも歯科医療を担い続ける者としては、従来の医療モデルから脱却し、対象となる人々の生活や生き方に関わる専門職チームの中で、その在り方を考えてみる必要がある。それこそが地域包括ケアシステムの構築であり、地域ごとに異なるリソース(社会資源)を把握し、多職種とのコミュニケーションの積み重ねにより実現され得る。

本シンポジウムでは、まず基調講演により平成30年度の医療・介護保険同時改定の内容から、歯科医療関係者が目指す方向性を確認する機会を得たい。そしてその上で歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士の3名のシンポジストにご登壇いただいて、それぞれの実践経験に学び、地域包括ケアの実現に向けた第一歩として、われわれが何を行うべきかの示唆を得たいと思う。特に今回は、事前の会員アンケートや当日会場でのリアルタイムのアンケートを行うことで、活発なディスカッションを展開できればと思う。

[S5-2]チーム大分の礎

- 歯科衛生士の参加する地域ケア会議からみえてきた課題 -

○有松 ひとみ¹ (1. 一般社団法人大分県歯科衛生士会)

【略歴】

- 1980年 九州歯科大学附属歯科衛生学院卒業
- 1980年 北九州市内開業歯科医院勤務
- 1985年 九州歯科大学附属歯科衛生学院専任講師
- 1996年 別府市健康づくり推進課嘱託歯科衛生士
- 2006年 立命館アジア太平洋大学国際マネジメント科学士課程修了
- 2009年 医療法人聡明会児玉病院リハビリテーション部所属 在職中
- 2012年 一般社団法人大分県歯科衛生士会会長

平成24年度から、大分県では高齢者のQOL向上を目的とした地域ケア会議を開催してきた。多職種が助言者として参加し、医療と介護を繋ぐツールとして機能した結果、すべての市町村が運動・栄養・口腔を三位一体とした新総合事業に移行、互助力強化としての住民参画型介護予防推進計画が進行中である。介護予防ボランティア・生活支援コーディネーター・通いの場が増加する中、大分県歯科衛生士会員が認知症カフェ運営や立ち上げにかかわり、地域住民のニーズに合わせた支援活動に貢献している。

本シンポジウムでは、介護保険の基本理念“自立支援”を軸として、専門職種組織同士が切磋琢磨しながら築いてきた、チーム大分の軌跡を報告するとともに、これから迎える超高齢社会、時代の転換期において、歯科領域に向けられた期待と課題の声を問題提議とし、今後の目指すべき方向性を共有できればと考えている。